



特集：百年目の今とこれから

百年のあゆみ

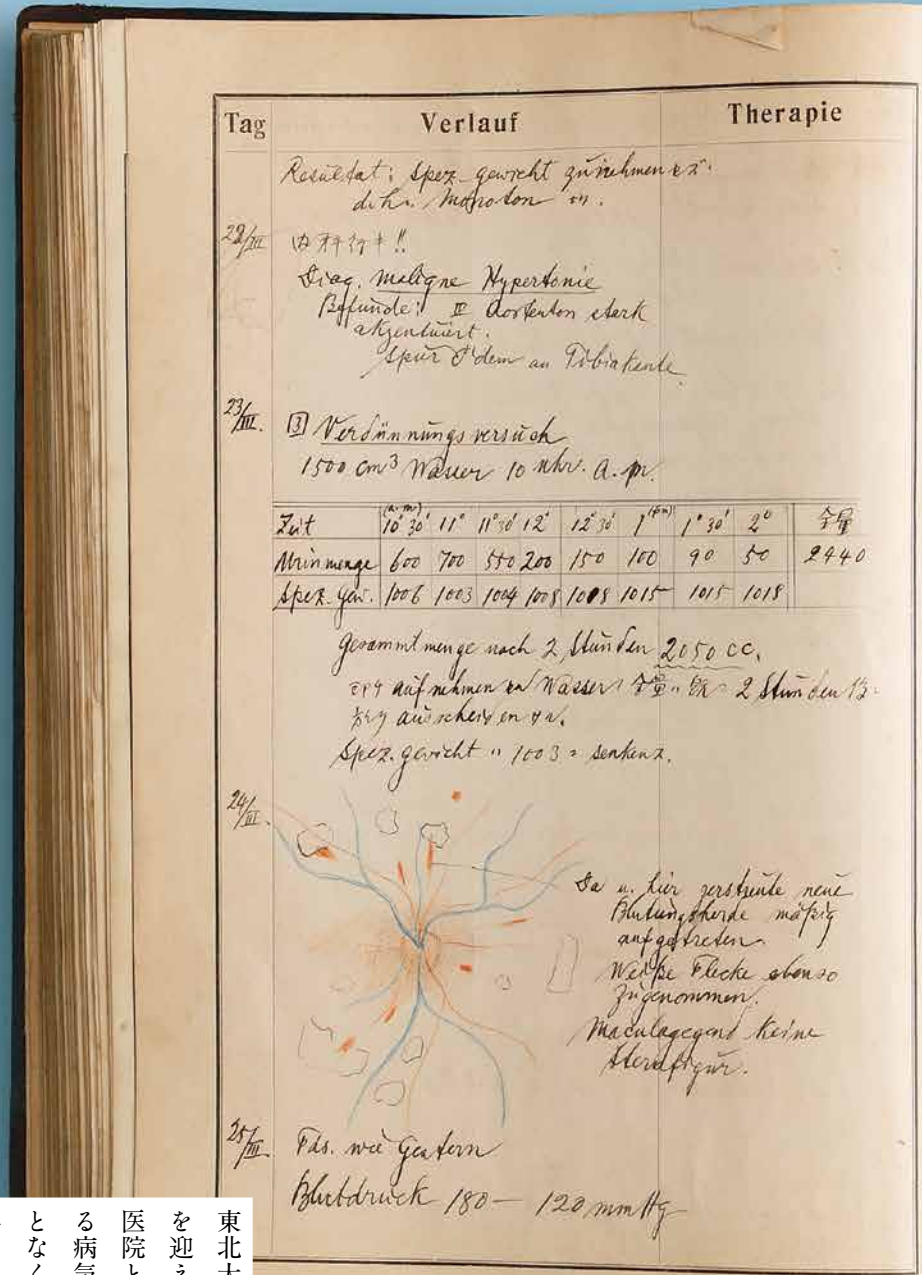
- 1915.07 大正4年7月14日文部省令第10号により
東北帝国大学医科大学附属医院と改称
- 1919.04 大正8年4月1日勅令第55号により
東北帝国大学医学部附属医院と改称
- 1944.12 鳴子分院を開設
- 1946.03 長町分院を開設(1980年3月に廃止)
- 1949.05 昭和24年5月31日法律第150号により
東北大学医学部附属病院と改称
- 1964.03 中央診療棟(西)完成
- 1965.03 東病棟完成
- 1966.12 西病棟完成
- 1967.03 中央診療棟(東)完成
- 1978.04 臨床講義棟完成
- 1979.09 外来診療棟完成
- 1980.03 神経科精神科病棟完成
- 1984.04 中央診療棟完成
- 1994.08 特定機能病院承認
- 1995.01 鳴子分院と統合
- 2000.03 新西病棟(43,710㎡)完成
- 04 加齢医学研究所附属病院と統合
診療科再編(内科、外科、産婦人科・泌尿
生殖器科、脳・神経・精神科、小児科、
感覚器・理学診療科、放射線科)
- 10 加齢医学研究所附属病院と統合
- 2003.10 東北大学病院創設
(歯学部附属病院との統合)
- 2006.03 新東病棟完成
- 2007.02 医療法上の名称を東北大学医学部
附属病院から東北大学病院へ変更
- 2009.07 新外来診療棟完成
- 2013.01 東日本大震災後の医療復興を目的として
地域医療復興センター設置
- 2014.04 研修医の宿泊施設「星陵レジデンス」完成

写真/およそ90年前に使われていた入院患者カルテ。
網膜および脈絡膜疾患(東北帝国大学医学部眼科教室)

これまでの百年、
そしてこれからも共に生きる。

東北大学病院はこれからも、患者さまを、
そして未来の医療を見つめながら、次の
百年へむけた新たな一歩を踏み出します。

念そのものでもありません。



東北大学病院は、今年7月14日に百周年
を迎えます。東北帝国大学医科大学附属
病院として開設してから一世紀、あらゆ
る病気を抱える患者さまのために休むこ
となく続いた日々の診療は、患者さまと
共に生きてきた軌跡であり、私たちの理
念そのものでもありません。

百年目の 今とこれから

特集

hesso

東北大学病院広報誌「へっそ」

第7号
2015年5月15日発行

hesso(へっそ)は東北大学病院の広報誌です。人のカラダを中心に、いまの医療を中心に、地域の皆さまにわかりやすく当院の活動を紹介します。hessoを中心に人の輪ができる、まさに地域の「おへそ」のような存在を目指します。

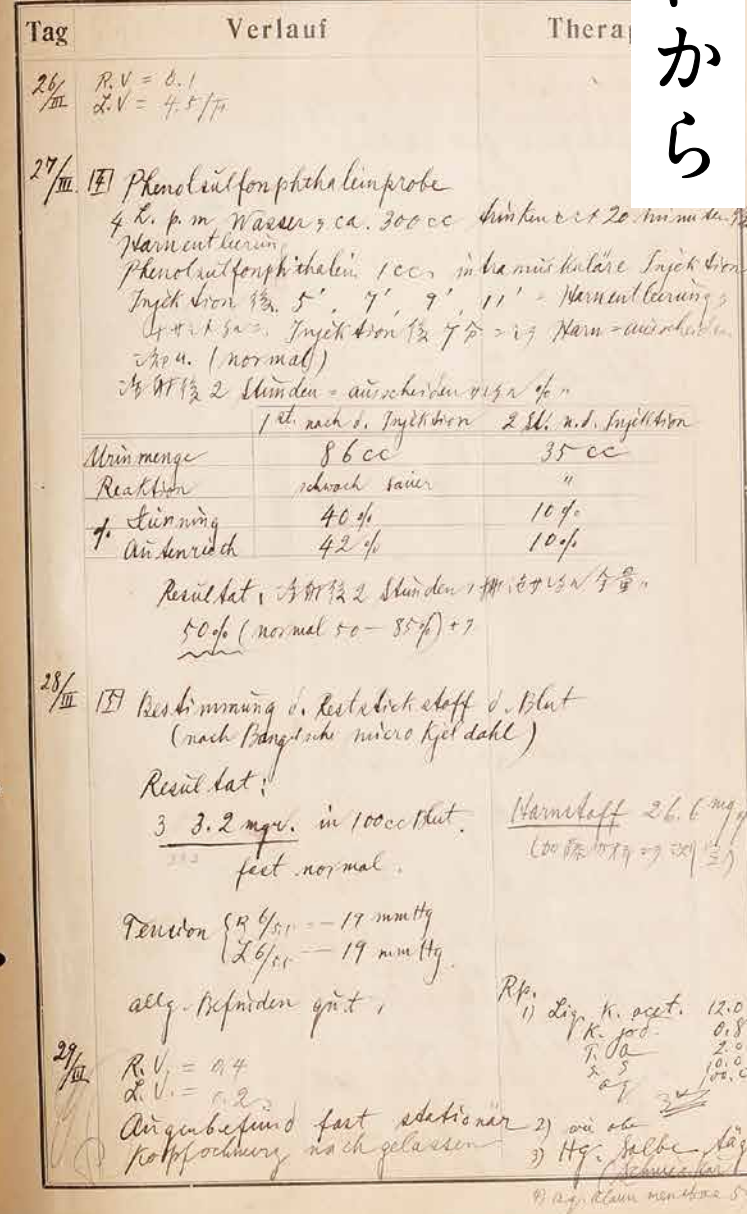
Publisher: 東北大学病院
Plan & Edit: 東北大学病院広報室
Design & Photo: akaoni Design

表紙のひと



東北大学病院
2015年度新入職員と
各部門長

4月から当院の医療職員として248人が加わりました。研修では、職種の垣根を越えて「チーム医療」の心得を学びます。これから始まる医療現場での仕事を前に、改めて気を引き締めた研修後の新入職員。憧れの大先輩(前列右から:薬剤部 松浦副部長、看護部門間部長、診療技術部 梁川部長、栄養管理室 岡本室長)と、「へっそポーズ」。



あらゆる垣根を越えて生まれる

あたらしい大学病院



八重樫 伸生（やえがし のぶお）

1960年生まれ、岩手県出身。1984年東北大学医学部卒業、八戸市立市民病院を経て、東北大学医学部附属病院産婦人科入局。米国フレッドハッチソンがん研究所留学等を経て、2000年に東北大学大学院医学系研究科教授に就任。2015年4月より現職。専門は産婦人科。

下瀬川 徹（しもせがわ とおる）

1953年生まれ、青森県出身。1979年東北大学医学部卒業、同附属病院第三内科入局。米国オクラホマ州立大学医学部、米国イリノイ州立大学医学部等を経て、東北大学大学院医学系研究科教授に就任。2012年4月から2015年3月まで病院長を務め、2015年4月より同院医学系研究科科長に就任。専門は消化器内科。

2015年4月、八重樫伸生病院長が就任し、下瀬川徹前病院長からバトンが渡されました。新旧病院長が、東北大学病院の今とこれからを語ります。

下瀬川：2012年の夏、宮城県の医療整備課にお願いして、被災地の医療施設をじっくり見てまわりました。現状を目の当たりにして、これは大変だと。すぐに石巻赤十字病院から石井正先生に来ていただいて地域支援の実務を担う部署をつくりました。今思えば少し強引でしたが、何とかしなければ破綻しかねない危機的状況でした。幸いだったのは、東北メデイカル・メガバンク機構が立ち上がったことで、国からの大きな財政支援があったことです。早速、山本機構長に電話をして、助教のポストを活用して若い医師を循環させるといふ私のアイデアを伝えました。今の体制が電話一本で実現したんです。

八重樫：今年は南三陸町の公立志津川病院の再建や、石巻市立病院の新築移転などが予定されています。ハード面が整ってくると、復興も新しいフェーズに入ります。

下瀬川：恒久的な医療支援体制を考える時期です。診療科をさらに説得する必要も出てくるかもしれません。連携をさらに強めて、真の復興と言える新たなシステムを築いて欲しいと思います。八重樫：今、病院はとても良い雰囲気です。震災という外圧に対して皆でなんとかしよう、ということが良い方向に向かったと思うのですが、ここからは

ちょうど転換期です。この明るい雰囲気のエネルギーがあちこちに発散してしまわないように、明確な方向性を出していく必要があると感じています。

下瀬川：病院の空気は、病院長や看護部長など執行部の人柄や考え方が反映されますからね。その点、八重樫先生には何も心配していません。医師に限らず、多職種が自由にものを言えて、情報を共有できることが病院の基本です。それが医療事故や病院の中の問題を少なくする原動力にもなります。そういう雰囲気は、これからもぜひ続けてほしいと思います。

新しい医療創出の中枢を担う

八重樫：先端医療の開発は、大学病院の規模や先進性を示す要です。臨床研究推進センター（CRIFTO）は、下瀬川先生の時代に基盤がつけられて、今ではスタッフが1000名を超える規模にまで大きくなりました。

下瀬川：CRIFTOは、これから新たな局面を迎えます。八重樫先生には、ぜひ実績を出して、国の様々な医療産業の開発を担える病院に発展させていきたい。期待しています。

八重樫：全学的な組織としてメデイカルサイエンス実用化推進委員会も下瀬

川先生が立ち上げられました。専門分野を越えた連携の中で、医療現場である大学病院の役割がかなりはっきりと見えてきました。それを太く、広くすることが、これからの私の仕事だと思っています。

下瀬川：メデイカルサイエンス実用化推進委員会は、16もの部局が横に連携しているわけですが、これは医学と工学の融合に伝統と実績を持つ東北大学だからできることで、他の国立大学にはありません。工学系、理学系の研究者にもサポートして頂いていますので、ぜひ大きく活動してください。

透明性を高め、地域社会からの信頼を

下瀬川：在任中を振り返って思い浮かぶことの一つに、広報室があります。震災があつて、私は市民から理解を得ることの大切さを実感し、広報室を立ち上げました。大学病院には優れた技能と知識をもった専門家が集結していて、難しい病気を抱える患者さんのために必死に頑張っています。しかし残念ながら、不信感をもたれてしまうことがあります。それではいけないと思い、我々の活動や思いを適切に発信する、そんな広報室を作ろうと思いついたわけです。

震災からの復興に全力を尽くした3年間

下瀬川：私が病院長に着任したのは、東日本震災の翌年です。当時の里見病院長（現東北大学総長）から復興のバトンを引き継ぎ、建物や設備を復旧して、いかに早く良い状態で医療を提供できるかというのが当面の課題でした。目標を立てやすかったこともあり、ですが、生理検査センターの整備、精神科棟の移転など、おおむね達成できたと思っています。

八重樫：敷地内にも、いろいろな施設ができましたね。手術手技を習得する先端医療技術トレーニングセンターもその一つです。我々だけでなく、被災地を含めた地域の医療者も利用できて、東北全体の医療者のスキルアップにつながっています。念願だった研修医の宿泊施設「星陵レジデンス」の完成も、国立大学病院としては画期的なことでした。院内だけではなく被災地への支援にも東北大学の底力を感じました。現在も、大学の若手医師が交代で被災地に赴いています。大学病院が診療科の垣根を越えてひとつのことに取り組むのは、震災前にはとても想像できなかったのですが、いざとなると当たり前のように各診療科は連携しましたね。

八重樫：他の医療機関よりも敷居が高いというイメージがありますね。臨床研究を進めるにあたって、閉鎖的では問題に繋がりがありません。

下瀬川：東北大学病院は「患者さんに優しい医療と先進医療との調和」をモットーとしています。この二つは相容れないようで、実は同じことです。先進医療を開発して、安全に患者さんに届ける、このミッションを実現するためには地域社会からの理解とサポートが欠かせません。透明性をもって情報を一般の方に積極的に伝えていくこと、そして一般の方からの要望も反映させていくことが大切です。

八重樫：市民の方々と交流できる場を今以上に増やしていきたいですね。職種、組織、地域、あらゆる垣根を越えてみんなが安心できる、あたらしい病院をつくっていきます。

※1 東北メデイカル・メガバンク機構・2012年2月、東日本震災からの復興事業の遂行のために東北大学に設立された組織。ゲノム情報を含む大規模な長期健康調査を県内で実施し、次世代型医療の構築を目指している。/ ※2 臨床研究推進センター：基礎研究が橋渡し研究、さらに臨床研究・治療への切れ目のない開発支援を行うために2012年に院内に設置された組織。医薬品・新たな診断法、医療機器の開発と実用化を目指す。/ ※3 メデイカルサイエンス実用化推進委員会：超高齢社会など医療福祉に関する課題解決を目指す、学内の連携体制をさらに強化するために設置された組織。関連する16部局が緊密に連携し、東北大学のもつ豊富なシーズを効果的に活用し、実用化を目指す。

みなさんに聞きました

あなたの考える

理想の東北大学病院

「これから」を考えます。当院スタッフや患者さま、地域の方々と共に、

安心できる場所
東北大学医学部医学科 2年 山中 慎也 さん

The Ideal Hospital
★ Easy to access
★ Kind service
★ Good communication
★ Affordable rate
★ 通いやすい
★ 親切なサービス
★ 良質なコミュニケーション
★ 手頃な料金
当院で長男を出産
デヴァラジュ M. K. さん(左)
ディヴィヤ D. N. さん(右)
ミトゥンデグ M. D. さん(中)

世界を見据えて 宮城を超える 大きな力!
宮城県保健福祉部 医師確保対策室 山本 志穂 さん

医科歯科連携による 思いやりのある 先進医療
総括副院長 口腔診断科 科長 笹野 高嗣

Love Dream Happiness
皮膚科 医師 照井 仁

日本医療の先駆者 として 質の高い 医療人と 育成の場
国立病院機構 仙台医療センター 地域医療連携室 地域医療連携係長 高橋 美鈴 さん

多くの人の 笑顔が 溢れる病院
総務課 安全管理係 市居 陽

東北に愛され 世界をリードする 病院へ!
診療技術部 臨床工学部門 主任 中畑 仁志

誠心誠意 患者様と 向き合う病院
生理検査センター 臨床検査技師 菅原 香織

信頼 愛 希望が 溢れる 病院
婦人科がん患者会 カトリアの森 高橋 まどか さん

人を いかす病院
経営管理課 経営企画係 鈴木 忠之

診療 研究 教育 を支える 経営基盤
医事課 課長補佐 前田 光男

患者さまに寄り添う 気持ちと 大切に
東 16 階病棟 看護師長 桜井 静江

未来を みつめる病院
薬剤部 試験研究室長 菊地 正史

ちやうじかかみ したくぞい
患者さま 福地 時士 さん

私たちの手で
心臓血管外科 科長 齋木 佳克

病気を 見逃さない 手厚い医療
当院で次女を出産 佐藤 友香 さん(中) あのん さん(左) えれな さん(右)

健康で 働ける病院
東 9 階病棟 看護助手 佐藤 妙子

世界の最先端医療を 技・心 スマートに 心がける
榺橋よしかつ+泌尿器科 院長 榺橋 善克 さん

安心して 治療がうけられる 病院
臨床研究推進センター 臨床研究実施部門 治験コーディネーター 阿部 圭子

極
卒後研修センター 2 年次研修医 古知 龍三郎

医工学に 跳躍と 生み出す 先端研究の場
臨床研究推進センター ASU 参加企業 NEC 情報・メディアプロセッシング研究所 福司 謙一郎 さん

MIYAGI 地域のかた
TUH 当院スタッフ

東北大学病院

開設百周年記念事業

当院は2015年7月14日、開設百周年を迎えます。

東北大学病院は、開設から百周年を迎えるにあたり、患者さまや地域の皆様からの長年にわたる温かいご支援に対して感謝の気持ちを込めて、東北大学病院百周年記念事業を実施いたします。

これからも、共に生きる。



東北大学病院開設百周年
The 100th anniversary of Tohoku University Hospital

ロゴマークについて

百周年ロゴマークの、二つのゼロが表しているものは「患者と医療従事者」、「先進医療と地域医療」、「過去と未来」です。東北大学病院の百周年を、これまで歩んだ軌跡とともに、前進し続ける二つの車輪に象徴します。これまでの百年、そして、これからも共に生きる。

東北大学病院開設百周年記念ホームページ
www.hosp.tohoku.ac.jp/100th/index.html



百周年記念式典

ご支援頂いた皆様への御礼と御祝いの会「百周年記念式典」を執り行います。地域の医療を守りながら、高度先進医療を提供してきた東北大学病院の変遷と数々の実績を皆様とともに振り返り、さらなる発展を祈念します。



百年史の刊行

東北大学病院は設立当時から、栄光ある歴史を展開してきました。我が国の医療に偉大な貢献を成し遂げた事実や、大災害や国際協力など、世界的潮流の中の当院の対応を記録に留めます。



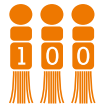
記念施設の設置

東北大学病院は1225床を有し、外来患者は一日約3000人へのぼります。日頃から当院の診療にご理解、ご協力いただいている皆さまに安心して当院をご利用いただけるよう、外来棟に記念施設の設置を計画しています。



七夕まつりプロジェクト

藩祖伊達政宗公の時代から続く地元仙台の伝統行事「仙台七夕まつり」に参加します。院内で募集した800枚の短冊を使った吹き流しに、患者さまや地域の皆さまの願いを託します。



市民公開講座の開催

東北大学病院は、地域の健康増進に貢献するため、最新の医療を分かりやすく発信する市民公開講座を開催しています。今年も百周年を記念して「脳の病気」がテーマの講演会をはじめ、写真展や特別イベントなどを行います。



病院公開見学会の開催

東北大学病院では、地域の皆様院内の施設を見学いただく病院公開見学会を開催しています。今年も百周年を記念して、地域の子どもたちを対象に、手術室やお薬の調剤など病院の裏側を探検する見学ツアーを企画しています。



ホスピタルモール写真展

外来棟と入院病棟を結ぶ「ホスピタルモール」。これまでに多くの方が、医療を受けるため、提供するために往来したこの場所で、東北大学病院の一世紀を綴る写真展を開催します。



国際化の推進と若手医療従事者育成の拡充

東北大学は百年という長きに渡り、東北地区へ優秀な医療人を輩出してきました。医師、歯科医師、医療従事者が海外で知識や技術を習得する機会を拡充し、国際的視野を持ち合わせた医療人の育成を推し進めます。



イベント情報

開設百周年記念 第12回市民公開講座を開催します



第12回の市民公開講座は「東北大学病院が取り組む脳の病気」と題し、当院神経内科医師による基調講演や、慶應義塾大学医学部岡野栄之教授による記念講演などを行います。またイベントコーナーでは、当院開設百周年を記念した展示なども行います。皆さま、ぜひ足をお運びください。

日時／2015年6月7日(日) 13時～15時45分
場所／仙台国際センター(仙台市青葉区青葉山)
参加費無料

お申し込み方法 事前のお申し込みが必要です。参加ご希望の方は申し込み用紙に必要事項をご記入の上、郵送、FAXまたはメールにて左記までご返送ください。後日、聴講券を発送いたします。定員になり次第、締め切らせていただきます。

応募先 東北大学病院 地域医療連携室「市民公開講座」担当
はがき：〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1
FAX：022-717-7132

Email: jikoo2-thk@umin.ac.jp
問合せ：022-717-7131
(土日祝日を除く8時30分～17時15分)
※申し込み用紙は当院内で配布しております。当院ホームページからもダウンロード可能です。※はがきまたはメールでも受け付けております。郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加人数を明記の上、お申し込みください。

夏休みに

病院探検ツアーを開催します

小・中学生を対象とした病院探検ツアーを開催します。普段入ることのできない施設の見学や医療手技の体験など、楽しみながら当院について学べる見学会です。詳細は、開設百周年記念ホームページや院内掲示などでお知らせします。ぜひご参加ください。



寄附について



開設百周年の記念すべき年を迎えるにあたり記念事業の実現と、当院のさらなる飛躍を目指して「開設百周年記念事業寄附」を開始いたしました。何卒、皆さまのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

お申し込み・お問い合わせ先
東北大学病院 百周年記念事業事務局
〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1
TEL: 022-717-7999
FAX: 022-717-8993
Email: tuh100@hosp.tohoku.ac.jp
(土・日・祝日を除く平日 8時30分～17時15分)



主食・いも類
主菜(魚介・肉・卵・大豆と)
副菜(野菜・海そう・きのこ)
くだもの
牛乳・乳製
油脂・多脂性

仙台白百合女子大学を卒業後、老人福祉施設を経て2005年に東北大学病院栄養管理室に管理栄養士として入職。栄養サポートチーム(NST)専従スタッフとして栄養ケアを担当。職場はジムで体を動かすこと

野菜を食べる

副菜レシピ



岡本智子 室長 監修

栄養とうまみが豊富に含まれる旬の素材を使った美味しい野菜の副菜レシピをご紹介します。あらかじめ料理の時間を短縮する下ごしらえをしておくことで、手軽に無理なく野菜を食べましょう。



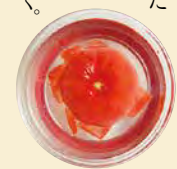
夏の食材 「トマト」



太陽の光で真っ赤に熟した露地栽培のトマトにはビタミンCが多く含まれます。その含有量は7月から増え始め、9月にもっとも多くなります。皮膚や粘膜などの健康維持に役立ち、メラニン色素の生成を抑制することから、肌のシミが気になる季節に摂りたい栄養素のひとつです。

便利な下ごしらえ術

あらかじめ皮をむいてから調理すると、消化も良く食べやすくなります。ヘタをくり抜き、沸騰した湯にさっと通す、または、フォークを刺して直火で回しながらあぶる。皮がめくれたら、すぐに冷水に入れ、皮を指でつまんでむく。



韓 真っ赤なサラダ

桜えびの旨味をプラスしてピリ辛の一品に!



レシピ(2人分) …ミニトマトを使用
うすくちしょうゆ大1・1/2、酢大2、ごま油大2、白すりごま大1、粉唐辛子少々を混ぜ合わせておく。ミニトマト1パック(190g程度)は半分、きゅうり1本(100g程度)は小さな乱切り、乾燥わかめ大3(6g)は水でもどす。材料を調味液と合わせ、フライパンで軽く炒ったさくらえび10gをかける。

洋 さっぱり トマトスープ

夏場の冷房で冷えた体と胃にもやさしい野菜のおかげ



レシピ(2人分) …トマト1個200g程度
皮をむいたじゃがいも1個(150g程度)を1/2~1/4に切り、玉ねぎ1/2個(80g程度)と湯むきしたトマト1個は大きめのくし切りにしてコンソメキューブ2個を入れた水400ccで煮る。じゃがいもに火が通ったら、白こしょうで味をととのえ、盛りつけてからみじん切りにしたパセリをちらす。

仏 ラタトゥイユ

熟したトマトは煮込み料理で夏野菜が常備菜に早変わり!



レシピ(2人分) …トマト1個200g程度
①湯むきしたトマト2個、②なす2本、③ズッキーニ1/2本、④玉ねぎ1/4個、⑤ピーマン1個を食べやすい大きさに切る。鍋にオリーブオイル大1・1/2と芯をとってたたきつぶしたんにく1/2かけを入れ香りがでたら、②~⑤の順に火を通し、①と塩小1/2、ローリエを加える。蓋をして約20分煮込み、黒こしょうで味をととのえる。

布田美貴子さん

栄養管理室/管理栄養士

安全で美味しい食事を届けたい

病院の管理栄養士は、入院患者食の献立づくりから外来患者さまの栄養指導まで色々な仕事があります。そのなかで私は、[※]栄養サポートチーム(NST)の一員として、医師、看護師、薬剤師などと一緒に入院患者さまの治療を栄養面から支えています。職種の壁を越えて、患者さま一人ひとりに最適な方法を考え、栄養を良い状態に保つのがNSTの目的です。

管理栄養士である私は、患者さまの栄養状態から栄養の過不足を確認し、適した食事を提供しています。また、食べた飲みこんだりすることが難しい摂食嚥下障害の患者さまには、食材の大きさや硬さ、とろみの濃度なども調整しますが、食事は美味しいのがいちばん。栄養素やかたちだけでなく、患者さまの好みにも気を配っています。治療により、食欲がない患者さまから、「食べられるようになった」「美味しかった」などの言葉をかけてもらえたときは、嬉しい気持ちでいっぱいになります。また、退院時の指導では、自宅での生活を見据え、必要な栄養を摂取するための食材選びから調理法、食事の食べ方など、ライフステージに合わせて具体的に分かりやすく伝えるように心がけています。

東北大学病院で働いて10年。これからも、栄養に不安を抱えた患者さまの要望に応えながらサポートし、私自身もつと管理栄養士としてスキルアップしていきたいです。

[※]栄養サポートチーム(NST)／栄養管理を実践するために医師、看護師、薬剤師、管理栄養士などからなる、職種の壁を越えた多職種チーム。

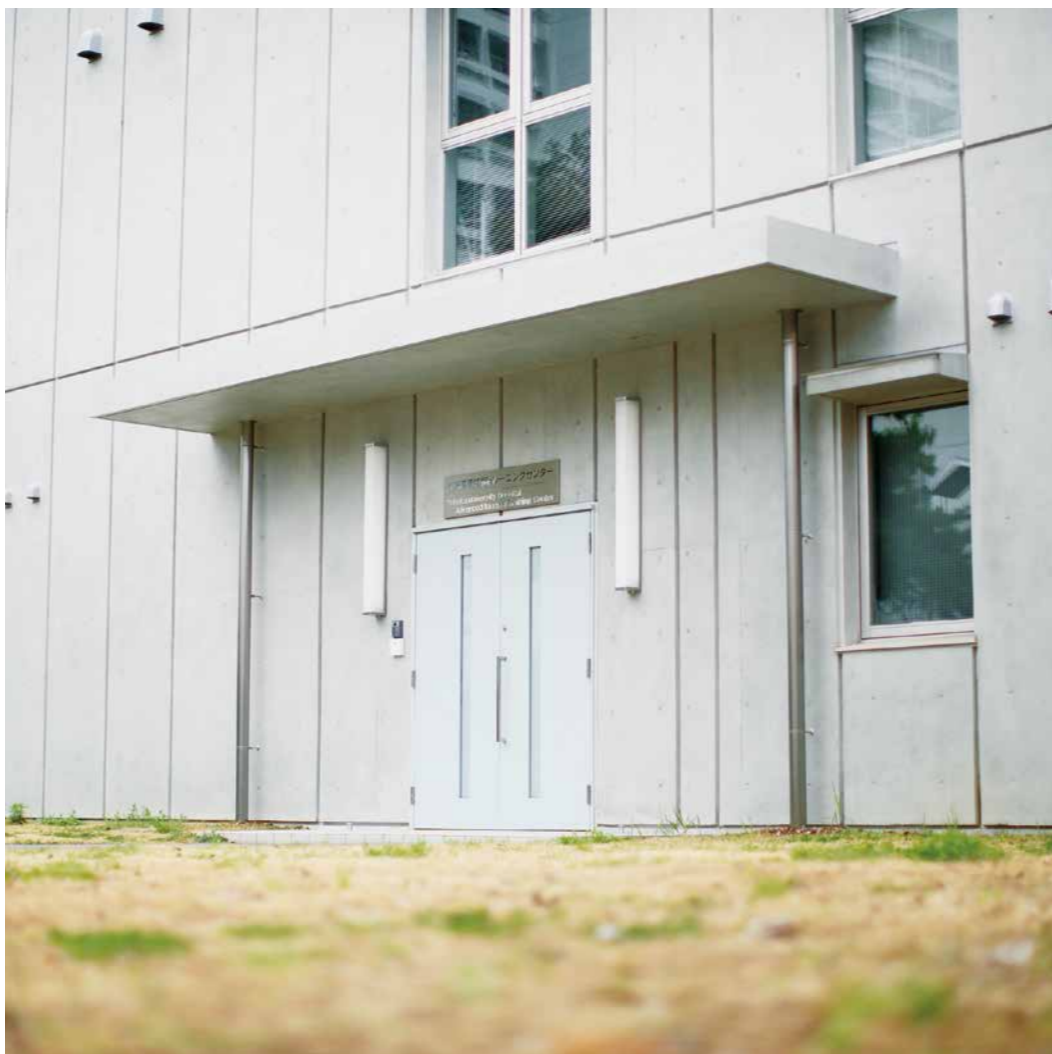
Vol.07

先端医療技術トレーニングセンター

多くの人の命を預かる医師の仕事、たくさんの勉学を重ね訓練を積んで免許を取得し、さらに技量を磨いて、医療現場で患者さまに接します。大切な命にかかわるその現場は、大きな責任が伴い且つ失敗が許されない場です。可能な限り本番に近い環境をつくり、そこで多くの訓練を積んで、万全の準備で臨みたいと切に願うものの、特に外科手術では難しい面もあります。

手術に近い環境を再現した多様なシミュレーター機器も、近年さかんに開発されていますが、さまざまな配慮を行った上で動物を訓練に用いることは今なお有効です。東北大学病院では、2007年から初期研修医や若手医師を対象に、動物福祉の精神に重点をおきながら研修を行ってきました。

星陵キャンパスの真ん中に2013年に設けられた「先端医療技術トレーニングセンター」の2階建ての建物は、本番の手術さながらの多様な設備を集中させ、東北大学のみならず広く東日本の医師たちも訪れて研修を受けることができるように構成されたもの。専門家による動物実験倫理・動物福祉の講義も用意し、現場に巣立っていく新しい医師たちの教育を十全なものにするべく、またキャリアを積んだ医師たちがさらに技術を向上させるためにも広く活用されています。



院内リノベ室

院内リノベ室とは、院内の環境を改善すべく、日夜頑張るチームです。改善結果は、こちらで報告します！

立体駐車場を新設します

かねてからご意見をいただいていた駐車場不足を解消するため、約300台が収容できる地上6階建ての立体駐車場を新設します。新駐車場は、病棟北側に位置し、東側および北側からのアクセスが可能です。2015年6月から工事を開始し、2016年3月末に完成の予定です。



AEDの配置を見直しました



各階の計算窓口や人の往来が多い場所に設置しています。

かねてから普及をすすめてきたAED（自動体外式除細動器）を、新たに35台導入しました。さらに、緊急時でも活用しやすいように配置も見直しました。入院病棟は西病棟各階のエレベーターホール（北側に統一し）、外来診療棟は

赤ちゃんにもやさしい病院です

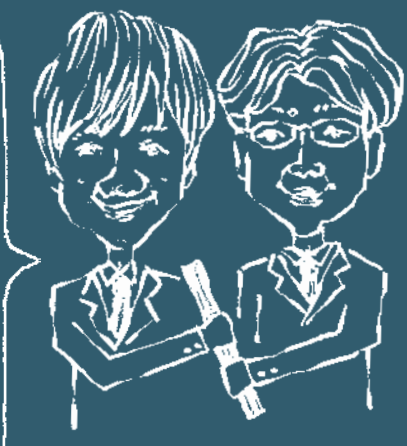
安心して赤ちゃんと一緒に来院していただけるように、授乳室やミルク用のお湯を提供している場所が分かる「赤ちゃんマップ」を新たに用意しました。外来診療棟1階にある総合受付そばのラックに設置していますので、ご自由にお持ちください。



つぶやき イリヨウリレー

つながっていく医療のことば。

私たち放射線診断科の医師は、CTやMRIなどの画像検査で画像から得られる情報や診断を主治医にレポートとして報告しています。また、狭窄や動脈瘤などの血管の異常や、がんを含めた様々な病気をカテーテルなどを用いて血管内から、または皮膚から針を刺して検査・治療すること（IVR）も重要な仕事のひとつです。



小児科・小児腫瘍科 新妻 秀剛 先生
放射線診断科 清治 和将 先生

小児がん治療の進歩は目覚ましく、60%以上の治癒が得られる時代になりました。しかし治療を受ける子どもやそのご家族の負担は大きく、多くの方々に支えられて小児がん医療が成り立っています。「がんの子どもを守る会」などを通じ、様々な形で支援をしていただけますので、どうぞ、ご協力をお願いいたします。

今回は、脳神経外科の齋藤竜太先生です！

第2回 東北大学病院 からだの教室

親子で学ぶ

風邪との上手なつきあいかた

を開催しました

3月7日、「親子で学ぶ 風邪との上手なつきあいかた」と題し、イオンモール名取にて小さなお子さんをもつご家族の方を対象にイベントを開催しました。当院総合感染症科の具芳明医師が、風邪をひきおこすウイルスや、風邪の予防法や対処法、風邪薬や抗菌薬について、デモンストレーションを交えながらお話ししました。会場からは、「インフルエンザの原因はウイルスですか?」「風邪の予防にガーゼのマスクを使っているが問題ないか?」「嫌がる子どもに薬を飲ませる良い方法は?」など、たくさん質問がありました。



詳細はホームページをご覧ください。
東北大学病院 からだの教室ホームページ
www.hosp.tohoku.ac.jp/karada/



永年勤務者表彰祝賀会を行いました

平成26年度東北大学永年勤務者の表彰祝賀会を行いました。この表彰は、長年に渡り東北大学の職員として勤務し、退職する方を表彰したもので毎年3月に授与しています。笹野総括副病院長が被表彰者へ向けて、長年の貢献に対するねぎらいの言葉を述べました。また、被表彰者代表として齋藤副臨床検査技師長から挨拶がありました。



Qさん Aさん

Qさん・・・外来診療の再来予約の時間を変更したいときは、どんな手続きが必要ですか?

Aさん・・・外来診療の予約時間の変更は、電話で受け付けております。平日(12/29~1/3を除く)15時~17時に診療科の外来窓口へ直接お電話ください。変更は予約日の3日前までお願いいたします。(但し、それ以降の変更は、速やかにご連絡をお願いします。)

周術期口腔支援センター開所式を行いました

4月1日、周術期口腔支援センターの開所式を執行了しました。

開所にあたり八重樫病院長から、「口腔は心臓病や糖尿病、早産等と深く関連があることが分かっており大変注目している。本センターは医科歯科連携の最先端であり、新しい取り組みを展開してほしい。病院としてもサポートして行きたい」と挨拶があり、続いて笹野総括副病院長は「医科と歯科が一つの病院として診療を始めて5年が経過し、医科歯科連携が浸透してきた。本センターの開設を機に利便性をさらに高めるなど、歯科一丸となって患者さん第一の診療体制を整備したい」と語りました。

細川亮一センター長は「開設のためにご支援頂いた皆さまに感謝します。歯科の医療技術を活用し、医科の最先端医療を支えていく体制を築きたい。また早期経口摂取など、患者さんの生活の質の向上にも貢献していきたい」と抱負を述べました。周術期口腔支援センターは、口腔内を適切に管理し、術後合併症の予防や治療成績を向上させることを目的として、医科歯科連携のもと活動を開始します。また、情報発信を積極的に行い、地域の歯科医院と共に市民のお口の健康を守ります。



未病・予防おしえて!

漢方先生

漢方内科 高山真先生

テーマ「聞診(ぶんしん)」

漢方の診察方法のひとつである聞診は、聴覚や嗅覚から情報を得て診察する方法です。例えば、話す時の声の大きさや発声・発語の仕方を聞き、咳の大きさや激しさを聞いたり、排泄物や口などの匂いを嗅ぎます。体格が良く、しっかり話す方で、便秘で便の匂いや口臭が強い場合は、体に要らない熱がこもっているかもしれません。

WEBマガジン Hesso で毎月更新中!



デンタル先生

保存修復科 齋藤正寛先生

テーマ「根の病気」

しつこい歯の根の痛みでお悩みではありませんか?実は歯の根の先端と骨の境界部分で持続的な痛みを伴う根尖性歯周炎(こんせんせいしゅうえん)という病気があります。この病気は根の先端から入り込んだ細菌の感染が原因で起こり、ゆっくりと周囲の骨破壊を進行していきます。治療の時期が遅れると痛みと腫れが長引きますので、お早めに専門の歯科医師を受診し治療しましょう。

新入職員オリエンテーションを行いました

4月1日より、本年度の新規採用の医療職員を対象としたオリエンテーションを実施しました。本オリエンテーションは、勤務に必要な基礎的な知識を備えるとともに、大学病院職員としての役割・心構えを理解し、適切な行動を身につけることを目的としています。オリエンテーションは4月1日から3日までの3日間で行います。初日は八重樫病院長による訓示・辞令交付の後、各部門などより概要説明がありました。



初期臨床研修修了証書授与式を行いました

3月18日、初期研修修了証書授与式を執行了しました。修了者が研修期間中に経験した症例を発表した後、修了証書授与を行いました。15名が、この3月に修了しました。



病院長賞の表彰式を行いました

3月19日、平成26年度病院長賞の表彰式を行いました。受賞したのは、看護部西17階病棟「時間がかさうプロジェクト」、生理検査センター、漢方内科 高山真准教授、2014年総合防災訓練ワーキンググループ、広報室の5件です。

みつけてスマイル



患者サービスセンタースタッフ 大友 祥子 さん

一期一会を大切に、心をこめて
当センターを担当して5年。不安を抱えた患者さまやご家族のお気持ちも少しでも和らぐよう、笑顔で丁寧な対応を心がけています。

「スマイルさん、こんにちは」と声をかけた方には、1日限定3名で Hesso シールをプレゼント!



ご意見募集

Hesso へのご意見・ご感想を募集しております。住所、氏名、年齢、性別、ご意見・ご感想をご記入の上、左記宛先までおハガキ、E-mail、またはフォームでお送りください。抽選で当院オリジナルグッズをプレゼントいたします。



宛先：仙台市青葉区星陵町1-11
東北大学病院 広報室
E-mail: hesso@pr.hosp.tohoku.ac.jp
ご意見・ご感想フォーム:
www.hosp.tohoku.ac.jp/hesso/contact



編集後記

特集で対談した新旧病院長、実は学生時代に野球部の先輩後輩(医学部6年生と1年生)でした。チームを結束させるリーダーシップの源は部活で培われたそう。対談は、当時の話で盛り上がり、楽しいひとときでした。(広報室)

／ススメ！／

医療復興

vol.4

このコーナーでは、地域医療復興センターが取り組む、医療復興への活動をご報告していきます。

医療復興、そして未来へ

3月14日～18日、仙台で行われた第3回国連防災世界会議。187カ国から延べ15万人が参加し、防災戦略について国際的な議論が行われました。東北大学は「東北大学復興シンポジウム～震災の教訓を未来に紡ぐ～」を主催し、藩基文国連事務総長を迎え、減災や産業、医療など、復興に向けた取り組みと未来へのメッセージを世界に発信しました。

パネルディスカッション「人と医療」には張替秀郎教授（副病院長）が登壇し、医療復興への対応の一例を紹介しました。地域の医療者が先端医療技術を習得する施設「クリニカル・スキルスラボ」を整備し、その利用者が延べ1万2千人にもものぼること、被災地医療体験実習に参加した東北大学医学部生9名のうち7名が東北に留まっていることなどを報告しました。張替教授は、「東北大学は先進医療と地域医療の文武両道を達成してきました。これからも地域の医療を支える活動を通

して、皆さまに安心を与えたい」とメッセージを送りました。

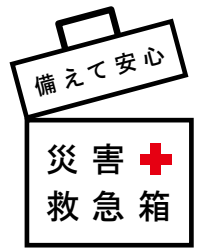
続いて石井正教授（総合地域医療教育支援部長）は、被災地の医療の現状や東北大学が取り組む地域への医師支援について講演しました。高齢化が進む地域には包括ケアも統括できる医師が求められており、地域の医療機関と連携してキャリア形成をサポートしながら地域医療を担う医師を養成していきたいと話しました。「東北大学には、地域の医療を支えてきた伝統がある。それを引き継ぐ医療者を育成し、東北地区の医療を守る使命を果たしたい」と力強く語りました。



里見進東北大学総長（左）、藩基文国連事務総長（右）

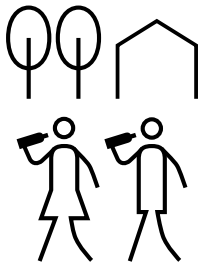


石井正教授



「エコノミークラス症候群」とは、血行が悪くなった脚の静脈に血のかたまり（血栓）ができ、肺動脈を詰まらせてしまう病気です。場合によっては呼吸困難となり、命を落とすこともあります。飛行機内で、長時間座ったままにいることが原因で発症することが多いため、この呼び名が付けられています。同じ姿勢でいることが多い避難所生活でも、エコノミークラス症候群になりやすいと言われています。東日本大震災でも、約4割の人の脚に血栓が認められました。

予防法は、脚の血流をよくすることです。歩いて体を動かしたり、足の指をこまめに動かしたりします。血液が濃くなってしまわないように、適度な水分補給も忘れないでください。



Web マガジン hesso
www.hosp.tohoku.ac.jp/hesso

Facebook hesso 公式ページ
www.facebook.com/hosp.tohoku.hesso



Facebook 東北大学病院 公式ページ
www.facebook.com/hosp.tohoku



Twitter 東北大学病院 公式アカウント
[@hosp_tohoku](https://twitter.com/hosp_tohoku)

